

小川分団第5班団員

藤田 保志

小川分団第5班団員

小西 健悟

○退職団員感謝状

伊野分団副分団長

森田 正也

伊野分団部長

片岡 博之

伊野分団班長

栄枝 克哲

枝川分団班長

水田 孝徳

神谷分団加田部団員

井上 実花

伊野分団団員

大岡 理枝

伊野分団団員

松岡奈緒美

伊野分団団員

高田 美穂

※階級については、申請時(平成24年度)の階級となっております。

南分団池ノ内部

楠目志麻団員の意見発表

《全文》

まずは、私の紹介からさせていただきます。

私は、いの町消防団南分団池ノ内部に所属しています。



いの町消防団は、平成25年4月1日現在386名、内女性消防団員は12名で、その内の一人になります。

本日は、平成24年2月13日から15日に行われた、第11回消防団幹部候補中央特別研修について、お話ししたいと思います。

北海道から沖縄まで92名の女性消防団員が日本消防会館に集まり、研修と東京消防庁の視察を行いました。

研修内容は、「消防実務」「消防団運営」「防災対策」「予防」話し方講座の各講話を受け、課題討議を実施しました。

課題討議では、「女性消防団員の役割について」「女性消防団員の確保対策について」「女性消防団員による、新た

な消防活動の展開」についてでした。6班に分かれそれぞれの課題を4回にわたり討議しました。

私たちの班は、「女性消防団員の役割について」討議しました。

今回は、この討議内容について、発表したいと思っています。

全国には、約2万人の女性消防団員がいます。活動内容や役割は、各団で異なり、大きく2つあります。一つは、「男性団員と同じ活動や役割を果たす」もう一つは「女性特有のコミュニケーション能力を生かし、防災・広報活動を行う」というものです。

私の所属するいの町消防団は、「男性団員と同じ活動や役割を果たす」ことを求められており、火災・水難事故などが起これば、同じように出動し春と秋に行われる演習や、2年に一度行われる操法大会に向けた訓練にも参加しています。

いずれは、選手として出場できればと思っています。このような活動は、全国的に見れば、珍しいそうです。

問題点として挙げられたのは、女性は当てにならないという意識が男性団員に強い。また、女性の特性が消火活動にどうかされるのかがみえない。女性団員も自身の能力がみえない。女性消防団員(消防団組織含めて)の存在や知名度が低いため、地域住民の意識下がない。どういう活動をしたらいのか分からず手探り状態であるという意見もありました。

こういった問題点を改善するために、女性団員としての特性とはどういったところかを考えてみました。「日常生活の困ったことなど、地域住民から聞き出しやすい」「災害弱者が有事態で困っているときに気配りができる」「PTAや保護者との連携が取りやすい」などがありました。

このような問題点・特性を踏まえ、これから女性団員としてどうあるべきか考えた結果、資格(応急手当普及員・防災士・ヘルパーなど)の取得や、傾聴・話し方マナーを身に付け地域に密着した活動を実践するという意見集約を得ました。

今回の研修に来られた団員の中には、東日本震災で被災地に行かれた方もおり、女性ならではの気配りが大変喜ばれたそうです。

多くの女性団員は、女性だけが、防火・広報活動だけを行うということに疑問を抱いています。

中には、熱心に月1回以上は、施設を訪問し活動を行っている団もあります。しかし、多くの女性団員は、男性団員と同じように活動したいと望んでいました。

究極のボランティアといわれている消防団に入団したからには、出来る限りの知識と技術を身に付け、地域の防災力を担いたいと思うのは、男性も女性も同じだと思います。

私は、入団当初男性団員と同じように動けない自分に苛立ちを覚え、本当に入団してよかったのだろうかと思うときもありました。しかし、団の消防車を更新する際、私でも扱いやすいようにと、ホースを50mmに変更してくれました。他にも女性目線で、何をどう変えていけばいいのかわからず、いろいろと聞いてくれました。